

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月 1日

事業所名 子どもの広場 桑名

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	0	個別療育は刺激少なく集中して療育ができるようになってきている。引越しをして広くなったので適切になったと思う。	
	2	職員の配置数は適切である	8	2	職員間で話し合いを密にする。足りない。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	5	建物の構造上、階段があるので誤って落ちたり事故のないよう必ず職員がつくようにしている。バリアフリーになっていない。出入り口にスロープ台を設置した方が良い。バリアフリーになっていない所があるが貴重なので難しいところがある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11	0	毎日、掃除機・水ぶきを行ったりして清潔に努めている。毎日そうじを行っている。毎日、環境整備、そうじをして清潔を心掛けている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	2	時間がない時もある。毎日その都度話し合えるようにしている。話し合い、相談をしている。	
	6	保護者様等向け評価表により、保護者様等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者様等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1	保護者からのニーズ等は聞き、対応している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者様向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4	わかりません。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	定期的に研修を行って知識向上に努める。研修内容をチームで共有するようにしている。必要な研修には率先して参加してもらっている。すぐに役に立つ研修に参加させて頂いています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	0	保護者から本児の様子を聞き、作成した計画を説明し、承認をもらっている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	0		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	0		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	11	0	チームで相談しより良い活動を心がけている。話し合い、相談をしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	0	本児の発達に合わせてプログラム作成している。話し合い、相談をしている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	2	前日など余裕を持って打ち合わせをするようにしている。担当にまかせた個別療育になっているため打ち合わせを行うようにしていく。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	3	わかりません。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	0	行った内容を綿密に日誌にまとめるようにする。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	0			

関係機関や保護者様との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	1	情報共有を大切にしている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	2	該当なし。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	3	該当なし。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	各学校の支援計画を頂き、共通の支援を行うようにしている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	該当なし。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	6	地域のボランティアなどに参加し、交流していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	4	参加の機会なし。
	30	日頃から子どもの状況を保護者様と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	密に保護者とのコミュニケーションをはかるように努力している。母子通所なので支援後に必ず話せる機会を行う。
31	保護者様の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	2	母子通所なので支援後に必ず話せる機会を行う。	
保護者様への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	利用者に、定期的に説明をするように努めている。不信感につながらないよう丁寧な説明、言葉づかいを心がけている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者様から児童発達支援計画の同意を得ている	10	0	
	34	定期的に、保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者様同士の連携を支援している	2	5	小集団の療育時に保護者同士話せる機会を提供している。
	36	子どもや保護者様からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者様に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者様に対して発信している	6	2	日々のブログで子どもの様子を伝えられるようにしている。予約表にて活動を知らすようにしている。今は止まっているがブログで発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10	0	事前に確認をとっている。カギをかけて保管するようにしている。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	細かく情報収集している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	6	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者様に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1	月1回、防災訓練実施中。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	3	月1回、防災訓練実施中。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	確認し、表などの作成をしていきたい。確認するも、該当者なし。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	該当者なし。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2	作成していきたい。わかりません。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	チーム内で相談し、適切な対応をとれるようにしている。	